

現場力を養い、アクティブな人材を育てる 商大独自の「実効型ビジネス教育」。

まずはやってみるという「行動力」、しっかりやり遂げる「実践力」、そして、目的や課題を明確にして効果的に解決できる「課題解決能力」を身につける。大学全体の教育方法を通じての4年間の成長サイクルです。

商大の実学 1 ACL (Active Learning)



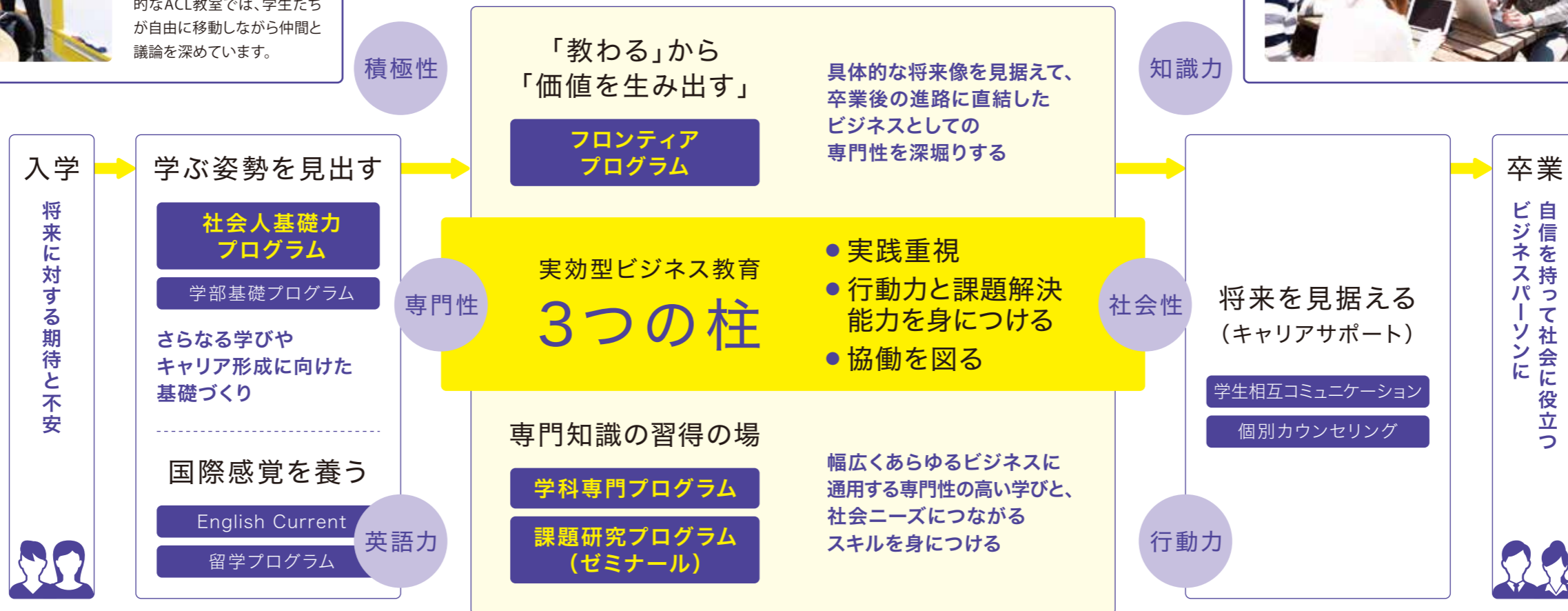
Active Learningとは、ディスカッションやプレゼンテーションなど、学生が主役となる授業のこと。壁一面に設置されたホワイトボードが印象的なACL教室では、学生たちが自由に移動しながら仲間と議論を深めています。

商大の実学 3 体験主義



商品企画の基礎から携帯アプリの開発など、憧れの職業に直結する学びを提供。テキストに書かれたことを覚えるだけではなく、ビジネスの最前線で役立つスキルや、物の考え方、コミュニケーション能力を磨きます。

実効型ビジネス教育



商大の実学 2 少人数教育



学生同士はもちろん、学生と教職員の距離がとても近いことも、横浜商科大学の魅力のひとつ。学生一人ひとりの個性や学習達成度に合わせた丁寧な指導により、専門性の高い授業も着実に理解することができます。

商大の実学 4 フィールドワーク



社会の中でどのように商品やサービスが提供されているか、その最前線に触れるため、多くのフィールドワークを実践。時には有名企業の裏側まで潜入することも。こうした体験により、ビジネスの成功の秘訣を直感的に得られま

地域や連携企業との実践型フィールドワーク